

島田先生への質問

神奈川県立三浦初声高等学校
金子幹夫

<読み原稿>

神奈川県立の県立高校で「公民科」を担当しています金子幹夫と申します。

私からの質問は2点です。

第1の質問は、用語の解釈について、第2の質問は国際経済を高校生に教えることについてという内容です。

さっそく一番目の質問です。

島田先生のご講演のなかに「フェア（包摂的）な経済制度」というスライドが出て来ました。スライドでは「フェア（包摂的）」と「アンフェア（収奪的）」が並べられています。

次に「フェアトレード」か「ビジネス」かというところで「フェア」という用語が登場していました。

私たち高校教師が教材研究をしていると、フェアトレードは「公正取引」という意味で解釈し、貧困に追いやられた発展途上国の自立を支援する活動という意味で生徒に教える場合が多いと思います。

私たち教師はフェアトレードについて教えるときに、「包摂」という言葉と「公正」という言葉の持つニュアンスについてどのようなことを知っておくと教材づくりに役立つのでしょうか。フェアという用語が持つ「包摂」と「公正」という意味について整理できればと思います。

第2の質問です。

今日のご講演の中に「なぜ国際的なことに関心が薄いのか？」という問いが示されていました。

この問いを私は「交換がうまく機能する場合とうまく機能しない場合があるのはどうしてか？」という問いとして解釈してみようと考えました。どういうことかといいますと、身近な集団の中では「交換」はうまく機能しますがどこか遠いところが相手の場合「適切な交換」という感覚がうまく働かない場合があると捉えたのです。

自分に身近なところでは適切に交換しようという心が働くが、遠いところが相手だと適切に交換しようという心が働かなくなる場合があるのはどうしてか？そして誰が相手でも適切に交換しなければいけないという心はどうすれば身につくのか？と考えたのです。

そこで質問です。私たちは経済的な見方や考え方を生徒に教えます。そこで、その経済学の枠組みでは、「交換」という行為はプレイヤー間の距離なく適切に行われるものだという前提で理論が構成されているものなののでしょうか？

交換を行うプレイヤーが二者とも国内にいる場合という前提と、国境を越えて交換する場合の前提は異なるものなののでしょうか。国内にいるプレイヤー同士ですと、適切に交換が行われるように「政府」の存在があると教えることができそうです。しかし国境を越えてしまうと「政府」のような存在がなかなかみえません。その中で生徒に「適切に交換しなければいけない」ということを教えようとする、システムを教えるのではなく「道徳」を教えるようになってしまいそうなのです。経済学において「交換」と「プレイヤーの距離」（つまり国内間における交換と国際的な交換）はどのように整理されているのかを教えてください。ありがとうございます。